

東光が記した “八尾のブラシ”

～小説 河内風土記 から～

意義

今 東 光
 八尾の地は、刷毛の産地として知られる。作者は、この地を舞台にした小説「河内風土記」の中で、刷毛の歴史や製造の様子を詳しく描いている。作者は、刷毛の歴史や製造の様子を詳しく描いている。作者は、刷毛の歴史や製造の様子を詳しく描いている。



「刷毛名鑑」1967(昭和42)年 八尾商工会議所 発行

写真：田中幸太郎



八尾の地で、その歴史・文化・人情の懐の深さに驚き、魅了され、見聞きしたことを文学作品のなかに留めようとした作家、今東光。その作品には、当時の八尾の産業や、それに関わる人々の生活の様子も随所に散りばめられています。その中でも、八尾の代表的産業である「ブラシ」にまつわる話を、小説中での記述や、当時の写真・資料等と併せてご紹介します。



「河内風土記」1960(昭和35)年 新潮社



提供：全日本ブラシ工業協同組合

写真：田中幸太郎

平成28年3月19日(土)～9月11日(日)

- 開館時間 午前10時～午後5時 ※入場無料
- 休館日 月曜日(祝日にあたる場合は開館)
- HP <http://web-lib.city.yao.osaka.jp/kontoko.html>

※開催期間中、展示替えを行います。その際は、市政だより・ホームページ等でお知らせします。

KON TŌKŌ MUSEUM
今東光 資料館

〒581-0003 八尾市本町2-2-8
 八尾図書館3階 TEL 072-943-3810

